

研究ノート

ドイツ・リート『詩人の恋 op. 48』に関する研究
—バリトン歌手ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウの演奏分析を中心に—

二宮貴之

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成26年1月9日受理)

A Study of German Lied, The poet's love op.48
—Performance Analysis of Baritone Singer Dietrich Fischer-Dieskau—

Takayuki NINOMIYA

*(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies Department of
Children's Studies, Nishikyushu University)*

(Accepted January 9, 2014)

研究ノート

ドイツ・リート 『詩人の恋 op. 48』 に関する研究
—バリトン歌手ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウの演奏分析を中心に—

二宮貴之

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成26年1月9日受理)

A Study of German Lied, The poet's love op.48
—Performance Analysis of Baritone Singer Dietrich Fischer-Dieskau—

Takayuki NINOMIYA

*(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies Department of
Children's Studies, Nishikyushu University)*

(Accepted January 9, 2014)

Abstract

The present article is a study of song expression which discusses performance approach by a world-renowned baritone singer (Dietrich Fischer-Dieskau, 1925-2012) for *Dichterliebe* op.48, the song cycle by Robert Schumann. The results indicate that he performs focusing on "performance faithful to music score," "thoughtful reading of poetry," and "artful parlando".

Key words : Song Expression 歌唱表現

German Lied ドイツ・リート

Robert-Schumann ロベルト・シューマン

Dietrich-Fischer-Dieskau ディートリッヒ・フィッシャー・ディースカウ

I. はじめに

ローベルト・シューマンは、ロマン派を代表するドイツの作曲家であり、これまでに『Liederkreis op. 39』、『Myrten op. 25』を始め、数々のドイツ・リートを世に残してきた。新編世界大音楽全集によると「19世紀におけるドイツ歌曲創作の歴史の流れのなかでローベルト・シューマン (Robert Schumann 1810-1856) はシューベルト (Franz Schubert 1797-1828) とブラームス (Johannes Brahms 1833-1897) のあいだに位置し、19世紀の前半から後半へのいわば掛橋の役割をはたしているが、・・・歌曲の質からいっても、かけがえのない大きな意味、ユニークにして貴重な価値をもっている。」¹⁾と記されており、ドイツ・リートの歴史の中でも重要な人物の一人と言える。また、ドイツ・リートの象徴的存在で「歌曲の王」と称されるシューベルトは、これまでに約600曲の歌曲を作曲し、リートの様式を確立した偉大な作曲家の一人であるが、シューマンもまた、シューベルトの直後に続くドイツ・リートの担い手とされており、シューベルトからの伝統を受け継ぎ、自らの音楽性や感性を最大限に生かし生涯で300曲余りの歌曲を残した偉大な作曲家の一人なのである。そのシューマンが残した歌曲の中に、『Dicht-Dichterliebe op. 48』(詩人の恋 op. 48)がある。この曲集は、詩人の恋愛をテーマにした16曲から成る「連作歌曲集」で、シューマンが作曲した作品の中でも傑作とされ、今なお多くの演奏家によって演奏されている。

これまでの連作歌曲集『詩人の恋 op. 48』についての先行研究では、板橋²⁾が行ったフリッツ・ヴンダリッヒの演奏分析や、木村³⁾がおこなった伴奏と詩の関わりについての研究、池上⁴⁾が行った調構造についての研究、真田⁵⁾が行ったシューマンの歌曲に於ける発想記号の特徴についての研究など、様々な角度から研究がなされている。いずれの研究も基礎と応用の上に立った貴重な研究であるため、参考にしつつ、今回は、先行例の少ない声楽家の視点から歌唱研究を行うこととした。研究を行うにあたり、板橋の研究例を基軸として、世界的バリトン歌手であるディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ (Dietrich-Fischer-Dieskau 1925-2012) (以下、ディースカウ) がどのようなアプローチでこの曲集を演奏しているかについて、録音音源を聴取し、楽譜と照らし合わせながら演奏分析を行い、この曲集の演奏

のあり方を明らかにしたい。

II. 研究方法

Deutsch Grammophon 415190-2“Fischer-Dieskau” 1974年4月、1975年4月、1976年4月にベルリンで収録されたCD音源に収録されている連作歌曲集『詩人の恋 op. 48』全16曲を視聴し、Peters⁶⁾編集の楽譜と照らし合わせ、第1曲から16曲までの全曲をピアノ伴奏、詩の解釈、音楽用語、フレージング、発声、発音、アクセント、母音や子音の関係等、様々な要素を勘案し、ディースカウがどのような音楽的アプローチや歌唱法でこの作品を演奏したかについて演奏分析を行う。音源CDを視聴する際は、1-10小節程度の細かなフレーズのまとまりごとで区切り、微細なニュアンスが聴取できない場合は、何度もリピートして聴き取った。分析及び考察については、1曲ずつ行っている。まず曲の全体像を明らかにし、次に小節単位の細かな演奏分析を行うことで演奏様式の特徴や音楽へのアプローチの方法等を把握し、最終的にディースカウがこの曲集をどのように演奏しているのかを導き出す。

III. 連作歌曲集『詩人の恋 op. 48』について

ロマン派を代表する作曲家の一人であり、情感豊かなシューマン作曲の歌曲集『詩人の恋 op. 48』は、「歌の年」と呼ばれる1840年に作曲された。この年にシューマンは後に妻となるクララ・シューマン (Clara Josephine Wieck Schumann 1819-1896) と結婚しており、生涯約270曲の歌曲を作曲した中で約半数を占める136曲もの歌曲をこの年に作曲している。シューマンは、結婚の喜びから創作意欲が湧き、数多くの歌曲を世に送りだしているが、連作歌曲集『詩人の恋 op. 48』もまた同様に、「歌の年」に作曲された。藤本⁷⁾は著書の中で「《詩人の恋》作品48 (ハイネ詩) 1840年5月24日から6月1日にかけて書かれた曲集。当初は「ハイネの詩、『歌の本』の抒情間奏曲」としてメンデルスゾーンに献呈する計画だったが、刊行は1844年にもちこされ、前半の〈あなたの顔は〉〈頬に頬〉と、後半の〈僕の恋は輝き〉〈僕の馬車はゆっくりと〉の4曲がはずされ、計16曲が《詩人の恋》と題されて、歌手シュレーダー＝デフリントに献呈された。」と説明しており、『詩人の恋 op. 48』は、ハイネ (Christian Johann Heinrich

Heine) の詩集『歌の本』から抜粋した16編に曲をつけた歌曲集なのである。この曲集の詩を書いたハイネは、ドイツ・ロマン主義を代表する文学者であり、シューベルトもまた彼の詩集に曲をつけたと言われている。

連作歌曲集『詩人の恋 op. 48』には16曲が収録されており、第1曲－6曲までは恋の喜びを歌い、第7曲－14曲までは失恋の悲しみを歌い、第15曲と第16曲では、苦しみを回想しながら昇華させており、曲集全体としては、恋する詩人の喜怒哀楽が歌われている。ピアニストであったシューマンらしく、ピアノ伴奏と歌唱部が見事に融合しており、詩人の感情をあえて歌唱部ではなくピアノの前奏、伴奏、後奏部分で表現するなど、音楽的にも多彩な曲集であると言える。また、移り行く音楽の色彩の変化が調構成にも表れており、魅力的な歌曲集の一つであると言える。また、詩はハイネの繊細な世界で表現されており、音楽と詩の見事な融合がなされているのである。このように、音楽構成、ハイネの詩、いずれをとっても非常に魅力的な作品であるため、演奏のしどころであり、聴きどころであると言える。

このドイツ・ロマン主義の文学者とロマン派音楽を代表するシューマンとが合わさり、至極の曲集が1840年の「歌の年」に完成したのである。曲の内容等については、演奏分析を参照されたい。

IV. 『詩人の恋』全16曲のフィッシャー＝ディースカウの演奏分析および考察

1. Im wunderschönen Monat Mai op. 48-1 (麗しく美しい5月に)

第1曲は、e moll(原曲 fis moll), Langzam, zart, 2/4拍子であり、花々が咲き誇りドイツで最も美しいとされる5月に芽生えた恋が歌われている。曲

中、主調へなかなか解決せず最後まで不安定な調で構成された曲である。e mollの主和音は登場しないが、曲の最後に属七の和音が出てくる。

譜例1)は、曲の最後の部分であり、属七の和音を表している。

詩人の恋 op. 48の始まりは、Langsam, zartの表示通り、ゆるやかに、そして揺蕩いながら5小節目の歌の冒頭部まで甘美に演奏されている。2小節目後半－3小節目冒頭にかけての「Fis-E-Dis」、3小節目終わりから4小節目冒頭にかけての「C-H-H」、4小節目後半－5小節目1拍目「Fis-E-Dis」、5小節目後半－6小節目1拍目の「C-H-H」の部分は、いずれも同一の音形を形成しているが、2－3小節目の音形はイン・テンポで演奏し、3－4小節目の付点16分音符でリタルダンドし、4－5小節目でも同様、5－6小節目も同様にリタルダンドしている。同一音形でも速度に微妙な差異をつけ音楽的に表現していることが特徴であり、5小節目終わりの歌唱部 Im wunderschönen Monat Maiの詩行では、歌い出しの呼吸を合わせるため、伴奏部分のピアノが、自然にリタルダンドをかけている。Imの「m」を明確に発音し、Maiの「a」の母音は明るく響かせ、強調して演奏されている。続いて、7－9小節の da ist in meinem Herzen die Liebe aufgegangenの詩行は、istの「i」をピアノ(P)「以下、強弱記号のピアノは、「ピアノ(P)」と表記する」で歌い、meinemの「ei」の二重母音を強調させ、Herzenの部分でポルタメント気味に甘く包み込むよう演奏し、フレーズは meinem-Herzen にかけてクレッシェンドし、die Liebe aufgegangenの、Liebeにストレスを置き、aufgegangenの gan-genの部分で詩の意味の通り(愛が花咲く)を表現するかのごとく ganとgenの8分音符のリズムを明確に刻み、体を支え、軟口蓋を開き、共鳴腔に響きを集め、母音がビ

譜例 1

ブラートをかけて伸びていくような芸術的な歌唱表現がなされている。13小節は、この曲の歌の旋律の中で、最高音である「F」の音が表れており、伴奏部と伴に呼吸を合わせ、上行形の音楽に沿って—gan-genを強調し、「F」の音を明るく美しい響きで歌唱している。伴奏部は、美しいヨーロッパの5月に恋をした詩人のなんとも言葉にならない悶々とした気持ちを主和音に定まらない不安定な調で揺れ動く音楽が表現している。

13-16小節は、13小節1拍目のgan-gen「F ♭-E」の音程から、伴奏が自然な形で受け継ぎ、リタルダンドしながら次の16-17小節目のIm wunder-の部分にかけて演奏される。16-20小節目の、Im wunderschönen Monat Mai als alle Vögel sangenの詩行は、曲の冒頭部のIm wunderschönen Monat Mai als alle Knospen sprangenの部分と同じアプローチで演奏していると言える。5-9小節目と16-20小節目は詩と歌の旋律の音形が同一に表現されており、いずれもドイツ語の動詞である「sprangen」, 「sangen」の「spran-」と「san-」の部分にアクセントを置き演奏するという共通点がある。20-24小節の、da hab' ich ihr ge standen mein Sehnen und Ver langen.の詩行は、da hab'ich ihr <ge standenのように徐々にクレッシェンドしつつ、ストレスを置くポイントにhab'の「a」、ihrの「i」、standenの「a」の母音に持って来ている。24-27小節目は、歌唱部の歌い終わりを受け、ピアノ伴奏が音楽の流れを壊さぬよう、優しく包み込むようにスラーがかかった分散和音を奏で、リタルダンドしながらフェルマータで余韻を持たせて終曲する。

2. Aus meinen Tränen spriessen op. 48-2

(僕の涙は溢れ出て)

第2曲は、G dur (原曲 A dur), Nicht schnell, 2/4拍子であり、恋をした詩人の切なく繊細な気持ちが詩に表現されている。音楽は終始ゆるやかなテンポで演奏され、歌唱部は、(新編 世界大音楽全集 1989) “朗読をそのまま歌にしたようなシューマンのパルランドの技法の典型的な例である(以下、“パルランド唱法”とする)。”

ピアノ伴奏と伴にアウフタクトのリズムで始まり、冒頭のアウフタクト—2小節のAus meinen Tränen spriessenの詩行は、meinenの「ei」、Tränenの「ä」、spriessenの「i」にアクセントを置きつつ、フレーズが途切れることなく演奏される。2-4小

節では、2小節の16分休符は音楽を止めず、次に表れるvielをすぐに歌い出して音楽を繋げて歌唱している。2-4小節のviel, blühende, Blumen hervorは、「blühen-」, 「Blu-」, の部分に言葉のアクセントを感じながら歌唱し、「hervor」は、やや言葉を強調して演奏し、「-vor」の部分でフェルマータをたっぷり取っている。4小節目冒頭—8小節目冒頭にかけては、冒頭のアウフタクト—4小節目冒頭までと同一の音形が表れ、同一個所にアクセント記号が付いており、6小節目の「wer-」, 7小節目の「Nach-」の部分にアクセントを置き、8小節目の「-chor」ではフェルマータしてピアノッシモで歌唱されている。8小節目後半からは、8小節目の1拍目のフェルマータで緩ませた音楽を戻しながら、10小節目のKindchenの「n」をはっきり発音し、母音が下に落ちないように維持されている。11小節目では、歌唱部分の旋律に16分音符や付点8分音符などの音価が短い音符で記譜されており、それらを表現するため、言葉をしゃべるように“パルランド唱法”で演奏している。12小節目は、ピアノッシモで始まり、13小節目のFenster sollの3連符を強調させ、14小節目のKlingenの「i」にストレスを持ってきて声の響きを膨らませた後、「-gen」にかけてデクレッシェンドをすぐにかけている。14小節目後半—16小節目にかけての、das Lied der Nachtigallの部分は、「das Lied」と「der Nach」と「-ti gall」の3段階に分けてデクレッシェンドとリタルダンドし、「gall」の「a」の母音をピアノッシモで表現している。総じてピアノ(P)の音楽の中で言葉をしゃべるように歌唱しており、“パルランド唱法”の典型であると言える。

3. Die Rose, die Lilie, die Taube op. 48-3

(薔薇や百合や鳩)

第3曲は、C dur (原曲 D dur), Munter, 2/4拍子であり、早いテンポで休むことなく終始演奏されている。早口言葉でしゃべるように第1曲同様、“パルランド唱法”が顕著に表れており、これまで好きだった薔薇、百合、鳩から一人の女の人に恋している様子が歌われる。ピアノ伴奏部も歯切れよく細かいリズムを刻み、11小節と16小節のリタルダンドを除き終始スピード感ある演奏がなされる。

アウフタクト—4小節目までを一息で歌唱し、1小節目Roseの「Ro-」、Lilieの「Li-」、2小節目Taubeの「Ta-」、Sonneの「Son-」、3小節目liebt'の「lie-」、

alle の「all-」, 4 小 節 目 Liebes の「Lie-」, wonne の「won-」などの1拍目頭と2拍目頭にアクセントを置き、快活に歌い上げている。4小節目の終わりの16分休符のIchの前でブレスを取り、5小節目では、Lieb'の「Li-」, mehr の「me-」にアクセントを置き、16分休符の次のichから強弱記号は表記されていないが、若干ピアノ（P）にしながらかつ歌っていることが特徴と言える。6-8小節目までは、これまで同様、1拍目と2拍目にアクセントを置き、8小節目Eineの次にブレスを取っている。8小節目終わりのsieから10小節目のWonneまでは、発想記号の表記はないが、あえてレガート気味に歌い、Liebe「愛」という言葉を表現するためにこのフレーズを甘く歌唱していると考えられる。10小節目終わり-12小節目終わりにかけてリタルダンドしており、音価が緩む頂点がTaubeの「Tau-」に置かれている。12小節目終わり-15小節目までは、これまでと同様に1拍目と2拍目にアクセントを置き歌唱され、13小節目のalleineの部分に出てくる「A-A-D-D」の音程個所にスラーがかかり、音が跳躍している部分は、「A」の音から「D」の音にかけてしっかり音高のイメージがなされ、上からそっと「D」の音を添えて歌唱されている。15小節目-16小節目のdie Eineでは、リタルダンドしながら短い小節数ではあるが、巧みにクレッシェンドとデクレッシェンドを行い、曲を歌い収めている。

4. Wenn ich in deine Augen seh op. 48-4

(僕があなたの瞳をみつめると)

第4曲F dur (原曲G dur), Langsam, 3/4拍子は、歌唱部とピアノ伴奏部が交唱しながら歌い合う。彼女のくちもとに口づけすると元気になり、「愛しているわ」と言われると涙が溢れ出るというロマンチックなハイネの詩が印象的な曲である。歌唱部は、ゆるやかなテンポの中、ささやくように“パルランド唱法”で歌われる。

1-2小節目の、Wenn ich in deine Augen seh'までのフレーズを一呼吸で歌唱し、deineにややストレスを置き、Augenの「a」と「u」の重なる2つの母音をまるやかに包み込みこんでいる。また、このフレーズでは、deinからAugenにかけて「A-C」と音程が短3度跳躍しているが、跳躍先の「C」の音を目立たせず、軟口蓋を広く開け、響きを絶やさず、なおかつ優しくまるやかに歌唱している。2小節目-4小節目冒頭までは、3小節目に表れるall' mein

Leid und Wehの詩のallの「a」、meinの「ei」、Leidの「ei」、の母音をそれぞれリエゾンして、meinからLeidにかけて「F-B」の完全4度跳躍の部分にストレスを置き、4分音符のWehを拍間一杯まで伸ばしている。4-8小節目は、5小節目に表れるküsseの言葉を強調して発音し、続くdeinen Mundにかけてクレッシェンドしている。また、deinenの最後の「n」を日本語で置き換えると「ぬ」のように明確に発音される特徴が見られる。7小節目のganz undの部分は、記譜上「B-C」と「F-Es」の2種類が表記されているが、ディースカウはテクニ的に難度の高い後者で表現し、gesundで歌い収めている。8-10小節目は、9小節目のlehn'の言葉にストレスを置きan deine Brustを一つのフレーズで捉えて歌唱している。10小節目のkommt'sは、ピアノ伴奏部で前の拍にクレッシェンドがかかっているため、それを受け、強めに歌唱され、あえて「kommt's」の一語を強調し、区切って歌唱している。11-13小節目は、音楽の流れに沿って歌唱され、12小節目のdoch wenn duの部分にある、連続する8分音符をややマルカートし、徐々にデクレッシェンドをかけ、13小節目のsprichstは、ピアノシシモで歌唱している。13-16小節目は、詩人とその相手を1人2役で表現しており、13-14小節目にかけてのich liebe dich!「愛しているわ」という、意中の相手の言葉の箇所は、声色を変化させ、ささやくように表現している。14小節目のsoから詩人の言葉に戻るため、少し強めの声色に変化させ、bitterlichをたっぷり歌唱して終曲している。

5. Ich will meine Seele tauchen op. 48-5

(僕の心をひそめてみたい)

第5曲目は、c moll (原曲H moll), Leise, 2/4拍子であり、過去の口づけの思い出を回想しながら、mollで感傷的に表現している。(新編 世界大音楽全集 1989) “ピアノ伴奏部は、右手でオスティナートふうに執拗にそれとは無関係な音形を繰り返す。” これまででないメロディーラインが表れている。

譜例2)は、ピアノ伴奏部がオスティナートの反復をしている。

アウフタクトから始まり、1小節目Ich-2小節目tauchenまでを1フレーズで取り、1小節目Seeleにフレーズのストレスを置き、上行形の頂点にあたるtauchen「C」の音は体を開放し、言葉が

譜例 2

Leise.

Ich will mei-ne See - - le tau - - - chen in den

♩

前に飛ぶように歌唱している。2 - 4小節目の in den Kelch der Lilie hinein では Kelch の言葉を出し、フレーズのストレスを Lilie に置き、上行形の頂点である ein は自然に発音されている。1 - 4小節目のような繰り返される同一音形であっても、ドイツ語の詩の意味の重要性からも分かるように、tauchen は強調し、ein は強調せず音楽に沿って自然に歌唱するなど、音楽に微妙なニュアンスを加えて歌唱していることが特徴として挙げられる。4小節目後半 - 8小節目は1フレーズで歌唱され、6小節1拍目の hauchen 「E」の音が14節1拍目「E」の音と同様に最高音であるが、音の高さを感じさせず、自然な音楽運びで処理し、余裕があり、豊かであるややかな響きの声で歌唱している。hauchen の後は、8小節1拍目まで下行する旋律が続いており、7小節1拍目「Lied」、2拍目「Lieb-」に言葉のアクセントを置き、8小節1拍目の mein 「ei」の母音を明確に発音している。8小節後半の das は、少し息を交え歌唱の表現に変化を持たせ、9小節1拍目「Lied」、2拍目「schau-」、10小節1拍目「be-」、11小節1拍目「Kuss」、にアクセントを置き、12小節1拍目 Mund の「d」の子音を明確に発音し、13小節2拍目「einst」にストレスを置き、14小節 gegeben で歌い収めている。in - 16小節 Stund まではリタルダンドで歌唱している。特に15小節の wunderbar 「3連符 D-D-C」の部分は、シューマンがこの言葉にわざわざ3連符をつけており、他の旋律の歌唱方法とは異なる形で感激をピアノ (P) で表現し、響きに加え、少し声に息を混ぜて歌唱し、次に続く süsser へ自然に繋げ、この感激を甘く表現して終曲している。

6. Im Rhein, im heiligen Strome op. 48-6
(ラインの聖なる流れ)

第6曲は、d moll(原曲 D moll), Ziemlich langsam, 2/2 拍子であり、ゴシック建築の大伽藍であるケルンの大聖堂の中の聖母マリア像の聖像画のことを愛する彼女であると歌っている。ピアノ伴奏は大聖堂を彷彿とさせる威厳に満ちた旋律であると言える。歌唱部もまた、威厳に満ちた声で朗々と歌われることが要求される。

音楽がフォルテで始まり、歌唱部もフォルテで共鳴腔にしっかりと共鳴させ、響き渡るような豊かな声で浪々と歌唱している。15小節目までフォルテで、フレーズを歌うというより、むしろ音符の音価の通り1音1音強調しながら明確に勇ましく歌唱している。特に3小節目の Stro-のアクセント部分はフォルテの中でも強く、6小節目の4分音符2つの in den の部分もドイツ語としては特に強調する単語ではないにも関わらず、ライン川の雄大な様子を音楽で表現しているためか、そのニュアンスを十二分に表現するため、強調して歌唱している。16小節 - 21小節目までは、これまでと音楽が一変し、ピアノ (P) で歌唱され、19小節の Bildnis, のカンマで区切り、19 - 21小節は、Leder の「Le-」にアクセントを置き、malt の「t」の子音は、横隔膜を使い明確に発音している。22小節からは、音楽が再び冒頭部分同様、勇ましくフォルテで演奏され、23小節 meines の「mei-」、24小節 Lebens の「Le-」25小節 Wildnis の「wi-」の部分は、段階的に伴奏と歌が大きく強くなり、特に「wi」の部分は下唇を上前歯にくっつけ横隔膜を使い、おもいきり圧力をかけた後、一気に空気を送り込み発音されている。この25小節を頂点に置き、27小節までは自然に音楽の流れに沿って歌唱されている。28 - 30小節までは、全音符や2分音符などの音価が長い音符でピアノの伴奏

が演奏され、ライン川の大きさを表しており、31小節から再び歌の旋律が始まる。31小節の Es schweben の部分では「Es」の言葉の入りに少し息を加えた表現がなされ、32小節1拍目の「Blu-」、33小節1拍目の「Eng-」の部分にアクセントを置き、35小節 Frau までを揺蕩うように歌唱している。35-39小節は、die Augen, die Lippen, die Lippen, die Wänglein のように韻を踏んだ詩が表れるが、リズムパターンは同一である。注目すべき点は、楽譜にクレッシェンドの表記がないにも関わらず、徐々にクレッシェンドし、「die Lippen」と「die Wänglein」をペザンテで歌唱しているところにある。39小節後半から42小節にかけてはピアノ (P) で歌唱され、40小節終わりの der からリタルダンドし、42小節で歌い収めている。

7. Ich grolle nicht op. 48-7 (僕は恨まない)

第7曲は、C dur, Nicht zu schnell, 4/4 拍子であり、曲調は明るく旋律も甘美で美しくこの曲集の中でも際立つ1曲である。しかし、旋律の美しさとは裏腹に歌詞の意味は、恋人への未練を延々と歌い、(新編 世界大音楽全集 1989) “ピアノのアコルドの連打” がその気持ちを表現していると言える。歌唱部は歌詞を一語一語明確に発音しつつ、特に子音の「cht」などを強調することで曲の特徴を表現することができると言える。

譜例3)は、ピアノのアコルドの連打である。(僕は恨まない) という曲名とは裏腹な気持ちが表現されている。

ピアノ伴奏は、1拍目と2拍目の強拍箇所にアクセント置き、右手は全て8分音符の連続であり、左手は後奏以外が2分音符の連続で書かれている。非常にシンプルな曲構成であるが、旋律は美しく、この曲集の中でも特徴的な曲である。1小節目から歌は非常に力強く、「Ich grolle nicht (私は恨まない)」

と言葉とは裏腹の感情をメゾフォルテで表現している。1-4小節に出てくる nicht の「cht」や bricht の「cht」などの子音は、特に強調されている。5-8小節は、2回繰り返される ewig verlor'nes Lieb を1回目がメゾフォルテ、2回目がフォルテになるよう歌い分け、対比させている。8小節後半-12小節前半までは、ich grolle nicht が2回繰り返されており、9小節の「gro-」に最もストレスをかけ、その小節内ですぐにデクレッシェンドをかけ、10小節に出てくる2回目の ich grolle nicht はメゾフォルテで歌唱している。12小節の Wie du auch strahlst の部分は、楽譜を見ると「strahlst」にアクセント記号がついており、実際の声も「strah-」の部分強調され、声の響きが前に飛んでいる。13-14小節の in Diamantenpracht の部分は、「-man-」を強調し、続く es fällt kein Strahl では「Strahl」の「s」の子音を前拍からくい気味で取り、最後の「l」を上前歯の裏にしっかりつけて発音されている。15-18小節は、16小節の「Her-」に歌のアクセントを置き、17小節にかけてリタルダンドしながら längst の「lä-」の開口母音でクレッシェンドをかけ18小節2拍目まで継続させて「st」の子音を非常に強調して発音している。19-22小節は、曲の冒頭と全く同じ旋律と伴奏が再び表れるが、強弱記号が1小節目はメゾフォルテであったが、19小節目はフォルテとなっているため、表現に違いを出すため、音量に変化をつけて歌唱している。22-30小節は、この曲中、最も音楽的に盛り上がる部分であり、ich sah dich ja im Traume の「sah」、「ja」、「Traume」の強拍箇所を意識しつつ、ピアノ (P) で歌唱し、und sah die Nacht in deines Herzens Raume をクレッシェンドしながらアツチエランドし、und sah die Schlang' die dir am Herzen frisst はクレッシェンドしながら「A-A-G-F」の音をバリトンとしてはかなりの高音であるが、ぬけるような響きで歌唱し、

譜例 3

ich sah mein Lieb,wie sehr du elend bist まで「F-F-F-F-F-F-E-D-C」の高音の連続部分では響きを逃がさず保ち、なおかつ言葉を明確に発音している。詩人が失恋した悔しさを、高音の連続で音楽的に情景描写し、高度な技術で絶妙に歌い上げている。30-33小節は、「Ich grolle nicht, ich grolle nicht.」の同一の詩をフォルテとメゾフォルテ程度の強弱で対比をつけて歌唱している。2回目は、メゾフォルテになり、「恨んではない」という感情が若干やわらいでいるようにとれる。

8. Und wüsstens's die Blumen, die kleinen op. 48-8 (花が、小さな花がわかってくれるなら)

第8曲は、fis moll (原曲 a moll), 2/4 拍子であり、花やナイチンゲールや星が僕の悲しみを分かってくれるならいろいろと慰めてくれるだろうと歌い、本当の苦しみを知っている（一人の女の）が僕の心をずたずたに切り裂いたと歌われる。ピアノの後奏が（新編 世界大音楽全集 1989）“そのやりばのない苛立ちと憤りの表現”を表している。歌唱部は、ささやくように、時に激しくメリハリをつけてそれぞれの詩行を歌い上げることが要求されると言える。

譜例4) は心をずたずたに切り裂いた人へのおさ

まらぬ気持ちがピアノの後奏部分で表現されている。

伴奏が32分音符の連続で細かく音楽を刻み、その流れに沿って歌の旋律がアウフタクトからピアノ(P)で歌いだす。アウフタクト-4小節までは、und wüssten's die Blumen die kleinen wie tief verwundet mein Herzとあり、1小節の「Blu-」、2小節の「klei-」3小節の「tief」に言葉のアクセントを置き、歌唱している。5-8小節は、sie würden mit mir weinen, zu heilen meinen Schmerz. という詩が歌われるが、sie würden mit mir にかけてクレッシェンドをかけながら「weinen」に向けて音楽のストレスをかけている。7小節の heilen,meinen は互いに「ei」の二重母音をしっかり響かせ言葉を強調し、8小節の Schmerz の「e」の母音を拍一杯まで丁寧にもろやかな響きで歌唱し、歌い収めている。8-12小節は、歌の旋律が「Cis-Cis-H-H-A-Gis-Fis-Fis-D-D-Cis-H-A-A-G ♭」となり、冒頭から4小節までの旋律とほぼ同一である。しかし、9小節に付点8分音符、16分音符で記譜された「Nachti-」の部分は一か所リズムが異なっており、演奏を聴くと「Nach-」の言葉にアクセントを置き歌唱しているため、楽譜に忠実な演奏を行っていることがわかる。11小節の「trau-」には言葉のアクセントを若干置き、12小節の krank の「k」の子音を特に強調

譜例 4

Edition Peters 8714

して発音している。この「k」の子音を強調し、次の言葉の sie を少し早めに発音することで、12小節後半-14小節にでてくる sie liessen fröhlich erschallen のフレーズに効果的なクレッシェンドをかけている。15-16小節は、13小節からの音楽の膨らみを受けて、フレーズを取める部分であるため、「Gis-Gis-Eis-Eis-Fis」の音を徐々にピアノ（P）で演奏している。17-20小節は、ピアノシモでソットボーチェしながら言葉のアクセントを感じて歌唱している。21-24小節は、kämen aus ihrer Höhe、の部分の音楽が「Eis-Eis-Eis-Fis-Gis-A-A」と順次進行しているが「kä」の部分に音楽のストレスを置き、「Hö-」に向けて少しクレッシェンドをかけている。続く、23小節の sprächen Trost でリタルダンドしている。24-28小節は、Sie alle können's nicht wissen のフレーズ始まりの「Sie」からソットボーチェで歌い、「kö-」に言葉のアクセントを置いている。26小節の Nur eine kennt meinen Schmerz では、「eine」の「ei」の二重母音を少し出し、「schmerz」の「e」の母音を響かせることにより、言葉全体を強調して歌唱している。28-30小節にかけて sie hat ja selbst zerrissen という詩行があるが、zerrissen の「-rissen」をマルカートして特に強調している。この「-rissen」のピアノ伴奏部にもスタカートとクレッシェンド記号がついているため、この部分は全体的に強調した表現を必要としていると言える。30小節後半-32小節では、歌唱部の歌い収めであり、音楽記号もリタルダンド、スフォルツァンド、ア・テンポが記されており、音楽の色彩が目まぐるしく変化する部分である。Zerrissen mir das Herz、の部分では、「zer-」からリタルダンドをかけ、「-rissen」の付点8分音符、16分音符のリズムを音価一杯までとり、「s」の子音を強調することで言葉を明確に表現している。最後の mir das Herz は、8分音符、8分音符、4分音符の部分は、フレーズで歌うというよりむしろ、1語1語区切りながら歌唱している。

後奏のピアノ伴奏は、ア・テンポしつつ、スフォルツァンドやクレッシェンドして低音から中音までの音域を荒れ狂う波のようにダイナミックに表現して終曲している。

9. Das ist ein Flöten und Geigen op. 48-9

（あれはフルートとヴァイオリンのひびきだ）

第9曲は、d moll, Nicht zu rasch, 3/8拍子であり、3拍子系の特徴的な旋律で、ピアノ伴奏が踊りを表現したリズムを刻みながら始まる。この曲は、詩人の意中の人が他の男との結婚式で踊っている宴の音楽を表現しており、詩人の感情の起伏がピアノの旋律に表れている。楽譜に記されている強弱記号や発想記号を正確に表現する必要がある曲であり、（新編 世界大音楽全集 1989）“デュナーミクの指示を見逃さないように”しなければならないと言える。

譜例5）は、宴の踊りを表現したリズムパターンである。

4小節からメゾフォルテで歌が始まり、5小節「ist」、6小節「Flö-」、7小節「Gei-」にアクセントを置き、7小節の「Gei-」のアクセント記号がついた付点4分音符の「F」の音は、高音であるが、声が詰まらず抜けるように「ei」の二重母音を明るく発声している。8小節からフォルテで歌唱し、Trompeten schmettern darain の「A-D-D-D-D-D-C」の音程の部分は、「o」「e」「a」「i」などの「母音」を一定の響きを保ち、響かせ、横隔膜で息を支えた上で、「t」「s」などの「子音」を言葉のアクセント部分に関連性をもたせて明確に発音されている。8小節後半から2回目の Trompeten schmettern darain 「C-H-H-H-H-H-C」の音程部分は、1回目より低い音域であるが、息の圧力や響きの豊かさにさほど変化はなく、フォルテで演奏している。16-20小節は、ピアノ伴奏がピアノ（P）で演奏され、20小節から再び歌唱が始まるが、歌い出しの da tanzt

譜例 5

Nicht zu rasch

Das

の「tanzt」部分は声の響きに息を混ぜており、歌唱表現に変化を加えている。24小節からピアノ伴奏がクレッシェンドをかけ、die Herzallerliebste meinはフォルテで歌唱している。28-24小節と同様のフレーズであるが、フォルテではなくディミヌエンドし、31小節のmeinの言葉を音楽の流れに沿って自然に歌唱して歌い収めている。32-37小節は、ピアノの間奏が「踊りの音楽」を奏でている。38-42小節のdas ist ein klingen und Dröhnen、の部分は、ピアノ(P)で歌い出し、39小節「ist」、40小節「klin-」、41小節「Drö-」に言葉のアクセントを置き、「Drö-」の「F」の音を高い響きでしっかりと共鳴させて歌唱している。42小節からフォルテで始まり、「ist」「klin-」「Drö-」にアクセントを置き、46小節ein Pauken und ein Schalmeynの部分は、「ein」「Pau-」「ein」「Scha-」の箇所を強調し、歌唱している。50-54小節は、ピアノ伴奏が再び「踊りの音楽」を奏でている。54小節後半の歌の始まりは、ピアノ(P)で歌い出し、dazwischen schluchzen undの部分は少し息を混ぜて歌い、stöhnen、の「ö」をしっかりと共鳴腔に響かせて歌唱している。58小節から再びdazwischen schluchzen und stöhnenと歌われるが、3拍子の強拍である1拍目にアクセントを置き、フォルテで歌唱し、schluchzenの「luch」をはねるように表現し、「stöhnen」の最後の「n」を明確に発音している。62-65小節は、この曲の歌い収めであり、die lieblichen Engelein.の「lie-」、「En-」の部分にアクセントを置いている。65小節後半からは長めの後奏が続き、ディミヌエンドをしながらピアノニッシモで終曲する。

10. Hör' ich das Liedchen klingen op. 48-10

(かつて愛する人が歌ってくれた)

第10曲は、g moll, Langsam, 2/4拍子であり、かつて恋した人が歌っていた歌を思い出しながら失恋の悲しみにひたっている曲である。Langsamのテンポでゆっくりとしつとりと歌い、全体的にピアノ(P)で表現されている。

1-4小節は、ピアノの前奏であり、5小節から歌が始まる。5-6小節のHör' ich das Liedchen klingenの詩行は、「Hö-」、「Lied-」、「klin-」の部分に言葉のアクセントを置き、フレーズ全体は、あくまでも強調しすぎず「悲しみ」を表しながら、たんたんと歌われる。6-8小節のdas einst die Liebste sangは、「einst」、「Lieb-」「sang」にアクセントを

置き、言葉をやや強調しながら歌唱する。8-12小節は、9小節の「Brust」の「u」の母音を横隔膜でしっかり支え、響きのある声で歌唱し、10小節のspringenは、「r」を巻き舌して、springenの言葉の中に2つ出てくる「n」は、響を上で保ちつつビブラートをかけて音楽が停滞しないよう歌唱している。10小節後半-12小節1拍目のvon wildem Schmerzdrangの詩行は、音程が「Des-G-G-H-H-C」と上行しており、楽譜に記譜された音楽に沿ってvonを包み込むような柔らかい響きで歌い出し、「wil-」、「Schme-」、「-drang」にかけて響きの厚みが増している。12小節1拍目の「-drang」は、「a」の母音を共鳴腔で共鳴させ、ビブラートをしっかりとつけて、次のフレーズに受け渡しができるように、アプローチしている。

12小節後半-14小節のEs treibt mich ein dunkles Sehnen詩行は、「treibt」の言葉を柔らかな響きで歌い、「dunk-」の「u」の母音は、口の奥が開き、言葉が浅くならないよう発音し、「Seh-」に言葉のアクセントを置き、Sehnenの最後の「n」は響きを上で保ち、音楽を停滞させないよう歌唱している。14-16小節は、15小節の「Wal-」の部分に言葉のアクセントを置き、ややリタルダンドをかけ、16小節のhöh'では音が「Es-A」と増4度音程が跳躍するが、跳躍を感じさせない歌唱であり、「Es」の歌い出しから次の「A」の音のイメージを明確に持ち、ピアノ(P)で繊細に歌唱されている。16小節後半-18小節のdort lost sich auf in Tränenは、リタルダンドをかけながら17小節のaufの言葉を柔らかな響きで歌唱し、Tränenの「ä」の母音は響きを前に出し歌唱している。18小節後半-20小節は、最後の詩行、mein übergrosses Weh'。と歌われ、ピアノニッシモでありながらも「ü」や「-gro-」の部分を強調し、言葉が伝わるよう、歌唱している。21小節からは後奏であり、その曲調はもの悲しく、時にスフォルツァンドで強い悲しみを訴えるかのように情感豊かに演奏され、終曲する。

11. Ein Jüngling liebt ein Mädchen op. 48-11

(ある若者が娘に恋をした)

第11曲は、Es dur, 2/4拍子であり、昔話のような詩であり、音楽は非常にコミカルでスキップをしたくなるような軽快なテンポとリズムである。しかし、その昔話の内容は、非常に皮肉なもので、失恋した若者を自虐的に描写している。軽快なリズム

にのりながら、詩の意味に沿い、声色を変化させて歌唱される。

アウフタクトのリズムからピアノ伴奏が軽快に始まり、4小節まで前奏が奏でられる。4小節後半からメゾフォルテで歌の旋律が始まり、5小節1拍目の「Jüng-」、6小節1拍目の「Mäd-」、7小節1拍目の「hat」、8小節1拍目の「-wählt」に見られるように、強拍の部分にアクセントを置き、言葉を語るように歌唱している。8小節後半-12小節は、7小節までと同様、1拍目に音楽のアクセントを置き、11小節の「A-A-A-H-H-H」の音程の部分は、音価の長い8分音符「hat」、「die-」にアクセントを置き歌唱している。12-16小節はピアノ伴奏にアクセント記号やスタッカート記号がついており、滑稽な様子を出すため強調して演奏されている。16小節後半-20小節では、17小節1拍目の「Mäd-」、18小節1拍目の「Är-」にアクセントを置き、19小節の *esten besten* の韻を踏む部分は、それぞれの言葉を明確に発音しながら「es-」、「be-」にアクセントをつけて歌唱している。20-24小節は、20小節2拍目の「der」にアクセント記号がついており、「F」の音まで音程が上がるが、母音を響かせ歌唱される。この2拍目のアクセント記号がついた部分は、音楽のリズムに変化を与える重要な部分であり、バリトンにとっては高音域に入るが、高音のイメージを明確に持ち、筋肉の支えと共鳴腔にしっかり響かせる技術を用いて歌唱している。20小節後半-24小節にかけてフレーズが *der ihr in den Weg gelaufen* と *der Jüngling ist übel dran* が表れ、これらは同一音形、同一リズムである。しかし、20小節2拍目の「der」にアクセント記号がついているが、22小節の *der* にはついていないという微妙な差異が楽譜に表れている。いずれのフレーズも楽譜に忠実な演奏がなされていると言える。また、21-24小節にかけて全体的にリタルダンドがかかっているため段階的にテンポを緩めている。*der ihr* の始めのフレーズは、それまでのテンポを維持しながら、*-laufen* のあたりでテンポを緩め、22小節の *der Jüngling* から明確にリタルダンドをかけ、2つの同一フレーズをテンポやアクセントのつけ方に注力し、ピアノ伴奏と共に楽譜に忠実に表現している。24-32小節は、バリトンの深みのある太めの声で声色を変化させ、歌唱している。24-28小節の *Es ist eine alte Geschichte doch bleibt sie immer neu* の詩行は、1拍目に記されている「ist」、「-schich-」、「blei-」の

強拍箇所にアクセントをつけながら、深い響きで歌唱される。28-32小節は、全体的にリタルダンドをかけながらテンポを緩め、*und wem sie just passiert, dem bricht das Herz entzwei* のフレーズの「passie-」を強調し、「*dem bricht das Herz entzwei*」の言葉を一語一語強調し、歌い収めの「-zwei」を共鳴腔に響きを集め、外に広がるように伸びやかに響かせてフォルテで歌唱している。33小節からはピアノの後奏が演奏され、アクセント記号が記譜されている部分を強調し、この物語の滑稽さを表現して終曲している。

12. Am leuchtenden Sommermorgen op. 48-12 (まばゆく明るい夏の朝に)

第12曲は、B dur, Ziemlich langsam, 6/8 拍子であり、ピアノ伴奏がゆるやかなテンポでまばゆい夏の朝を描写していると言え、終始ピアノ (P) で演奏される。歌は、詩人の描写と夏の庭に咲く花々の語りを表現している。

ピアノ伴奏のゆっくりとしたテンポで煌めくような前奏が2小節まで続き、2小節後半から歌唱部が始まる。前奏で表現された音楽に呼吸を合わせて2小節後半からピアノ (P) で *Am leuchtenden Sommermorge* のフレーズが優しく歌われる。3小節1拍目 *leuch-* の「eu」、2拍目 *Som-* の「o」、3小節1拍目 *-mor-* の「o」のそれぞれの母音を響かせ、言葉のアクセントを意識しながら歌唱される。5-6小節の *geb' ich im Garten herum* の部分は、*im* の「m」を明確に発音し、「*Gar-*」の「a」の母音を前に響かせている。7-8小節は、*Es flüstern und sprechen die Blumen* の「E」の部分は声に息を混ぜながら、ピアノ (P) で表現し、「*spre-*」にストレスをかけて上行音形を滑らかに歌い上げ、「*Blu-*」の部分でクレッシェンドをかけている。10小節の *ich aber wandle stumm* は、ピアノ (P) の音色で、いずれの母音も統一された響きでまろやかに歌唱している。12小節後半-14小節は、*sprechen* の「e」の母音を前に響かせ強調し、14小節の *Blumen* の「*Blu-*」に言葉のアクセントを置き優しく歌い収めている。14小節後半-16小節に出てくる *und schau mitleidig mich an* の詩行は、「*schau-*」、「*-lei-*」、「*an*」の部分にアクセントを置いている。16小節1拍目「*an*」は、母音を拍一杯まで伸ばし、豊かな響で母音にビブラートをかけ、ピアノ (P) の音色を保ちながら、伸びやかに歌唱している。17-20小節は、*Langsamer*

でかつピアノシシモで歌唱されている。Sei unsrer Schwester nicht böse, の部分は、「H-H-H-D-D-H-A-C」と記譜され、「-rer」から「Schwe-」にかけて「H-D」に短3度音程が跳躍するが、跳躍の頂点の「D」の音をピアノシシモで歌唱しており、高度な技術を用いて歌唱している。du trauriger blasser Mammの詩行は、19小節1拍目からリタルダンドをかけながらクレッシェンドをかけつつ、「blasser」でデクレッシェンドし、ピアノシシモの音色で歌唱するという非常に高度な技術が用いられている。21小節からピアノの後奏が緩やかに流れ、夏の朝と花々の揺れるような姿を描写して終曲する。

13. Ich hab' im Traum geweinet op. 48-13

(僕は夢の中で泣いた)

第13曲は、es moll, Leise, 6/8拍子であり、ア・カペラの部分を取り入れた、特徴的な“パルランド唱法”で歌唱されている。前半は、語りとピアノ伴奏の合いの手が交互に入り、後半はピアノ伴奏の和音と歌唱部の旋律が合わさり音楽を形成している。

譜例6)は、曲の冒頭部分のア・カペラの部分である。この曲集中唯一のア・カペラの“パルランド唱法”部分であり、特徴的な個所と言える。

1-3小節は、ア・カペラで歌い出し、2小節1拍目の「wei-」にアクセントを置いている。3-4小節1拍目は、伴奏が8分休符8分休符8分音符8分音符16分休符16分音符8分音符のリズムをスタッカートで合いの手を入れるように刻み、4小節後半-6小節にかけてmir träumte, du lägest im Grabの詩行をしゃべるように“パルランド唱法”で歌唱する。6小節-7小節1拍目まで再び伴奏がスタッカートの合いの手を入れ、ich wachte aufの「au」の二重母音を響かせて歌唱する。8-9小節のund die Töneは、「Tä-」を膨らませて歌い、10-11小

節は、floss noch von der Wange herabのflossの「f」の子音を早めに発音し、「Wan-」の部分にアクセントを置いて“パルランド唱法”で歌唱している。11-13小節は、統一された「母音」の響きを保ちながらピアノ(P)でア・カペラで歌唱している。14-15小節は、3回目の合いの手の伴奏が入り、15小節後半-17小節は、16小節1拍目の「träumt」の「-äu」の母音を強調し、続くdu verliessest michを“パルランド唱法”で歌唱している。18-22小節は、ich wachte auf, und weinteにかけてアツチェレランドとクレッシェンドをかけている。続くnoch lange bitterlichは、langeからリタルダンドをかけ、bitterlichをピアノシシモで歌唱している。22小節からスタッカートで刻んだ合いの手のリズムが変化して8分音符と4分音符のリズムで和音を鳴らして歌唱部に繋いでいる。24小節後半-32小節までの長いフレーズは、24小節「B」の音「ich」からピアノシシモで始まり、クレッシェンドとアツチェレランドをかけ、31小節の「Trä-」の音楽の頂点まで一気に歌唱している。27小節の「wär'st」にアクセントを置き、28小節のich wachteの言葉は、一音一音明確に発音し、30小節1拍目「im」と31小節1拍目の「strömt」にアクセントを置き、31小節の「Trä-」に向けてクレッシェンドする特徴がある。32小節からは後奏であり、スフォルツァンドやピアノシシモで音楽を表現し、4回出てきた合いの手のリズムが再び表れ終曲する。

14. Allnächtlich im Traume op. 48-14

(夜ごとの夢)

第14曲は、H dur, 2/4拍子であり、“パルランド唱法”が用いられ、言葉をしゃべるように歌唱される特徴がある。2/4拍子の曲であるが、9小節と22小節が3/4拍子に変わり、歌唱部がストリン

譜例 6

Leise

Ich hab' im Traum ge-wei-net,

ジェンドして表現の幅を広げている。

4小節まで“パルランド唱法”でそれぞれの詩行を語るように歌唱しており、1小節1拍目「-nächt-」、2小節1拍目「Trau-」3小節「seh'」にアクセントを置き、特にTrauの「au」の二重母音を強調して歌唱している。4小節後半-6小節のund sehe dich freundlichの部分は、seheの「Ais-Fis」とfreundlichの「H-Fis」の短3度、完全4度音形が下行する箇所は、ポルタメントをかけて歌唱している。7-8小節は、freundlich grüssenの「eu」の二重母音を響かせ、「ü」を強調して歌唱している。8小節後半-9小節の3/4拍子になる部分は、音形が上行しており、ストリンジェンドしてund laut auf weinend stürzich michを“パルランド唱法”で歌唱する。9小節後半-11小節のzu deinen süssen Füßenの箇所は、「Füssen」の部分にリタルダンドの記号がついているが、実際は、zu dainen-からリタルダンドをかけている。これは、3/4拍子の箇所であツチェレランドしたため、音楽の拍を戻すために行ったと考えられる。13-17小節のDu siehest mich an wehmütiglichの詩行は、15小節1拍目の「an」の「a」の母音の響きを前に出し、「n」の響きも上で保ち、15小節2拍目の休符は音楽が途切れないよう意識され、16小節1拍目の「weh-」にアクセントを置き歌唱している。17小節後半-19小節のund schüttelst, schüttelstの2回繰り返される「schüttelst」の言葉は、1回目より2回目の方が送り込む息の量が増しており、伴奏と伴にややテンポを上げて歌唱している。19小節後半-21小節は、20小節の「blon-」の部分にアクセントを置き、明るい響きで歌唱され、21小節のKöpfchenを歌い収めている。21小節後半-24小節のaus deinen Augen schleichen sich die PerlenTränentröpfchenの詩行は、再び3/4拍子に変わり、9小節目のようにアツチェレランドはかけず、sichに向けてクレッシェンドをかけ、Augenの「au」の二重母音にアクセントを置いて歌唱される。PerlenTränentröpfchenの言葉は、「Per-」、「-Trä-」の部分にアクセントを置き、リタルダンドしている。26-30小節は、ピアノシモで歌われ、小節の1拍目の強拍部分にアクセントを置いて「母音」を繋げて滑らかに歌唱している。30小節後半-34小節は、クレッシェンドして34小節に出てくる「Cypressen」を強調して歌唱する。34小節後半-37小節は、“パルランド唱法”で語るように歌われ、36小節1拍目Strauss

の「au」の二重母音にアクセントを置き、同小節のfort, und's, 37小節1拍目Wortをマルカートして言葉を明確に伝え、ich vergessenはリタルダンドをかけて歌い収めている。

15. Aus alten Märchen winkt es op. 48-15

(昔話の中から)

第15曲は、D dur (原曲E dur), Lebendig, 6/8拍子であり、全体的に明るい曲調で、前半はリズムカルに歌唱され、48小節後半の、Mit innigster Empfindung (深い内面的な情感を表して)の指示からは、緩やかなテンポで感情を込めて歌われる。これまでは、若者の体験について歌われていたが、(新編 世界大音楽全集 1989)“曲は人とメルヘンの世界のかかわりという一般化された次元に止揚されて展開される。”

アウフタクトのコミカルなリズムで伴奏が始まり、8小節後半まで続く。8小節後半-12小節のAus alten Märchen winkt es hervor mit weisser Handの詩行は、9小節「al-」、「Mär-」、10小節「winkt」、11小節「wei-」にアクセントを置いている。13-16小節は、音楽が上行し15小節の「Zau-」にクレッシェンドの頂点を置き歌唱している。16小節後半-29小節は、“パルランド唱法”で歌い、1拍目と4拍目の強拍箇所にアクセントを置き歌唱している。25-28小節は、ピアノの間奏が入り、28後半-36小節は、und grünebäume singen uralte Melodei'nからクレッシェンドが始まり、und Vögel schmettern dreinまでかけて長い小節をかけて行われる。37-40小節はピアノの間奏であるが、このクレッシェンドを受け、非常に厚みのある和音で、フォルテで演奏されている。40小節後半-44小節は強拍部分にアクセントを置き、コミカルなリズムになるよう歌唱されている。44小節後半-48小節のフレーズは、上行形の音楽であり、徐々にクレッシェンドして、46小節「Reigen」の部分にスラーをかけて歌い、47小節の「wun-」「-li-」にアクセントを置いて歌唱している。48小節後半und blaue-56小節の「Kreis」まではピアノ(P)で“パルランド唱法”しながら1拍目にアクセントを置いて歌唱される。56小節後半-67小節までは、und laute Quellen brechen aus wildem Marmorsteinの詩行は、ピアノ(P)からレガートしてクレッシェンドをかけ、Marmorsteinの「ei」の二重母音部分がフレーズの盛り上がり箇所にあたるため、豊かな響きで「母音」を歌い、-stein

の「s」の「子音」も横隔膜を使い強調して発音されている。60小節後半-67小節の und seltsam in den Bächen strahlt fort der Widerschein. Ach! Ach! の詩行は、前半部分の音楽的山場であり、伴奏の音も和音が厚く、歌唱部はフォルテで歌い、それぞれの語句の「母音」を響かせ「子音」を飛ばして歌唱される。特に Bächen の「Bä-」の部分は「Fis」の音でバリトンにとっては高音であるが、共鳴腔共鳴させ、張りのある声で歌唱している。64小節のフレーズの歌い収めの-schein は「ei」の二重母音を強調してクレッシェンドをかけている。65小節と67小節に Ah! と感嘆詞がでてくるが、2回目をピアノ (P) で歌い、表現を対比させている。48小節後半から Mit innigster Empfindung (深い内面的な情感を表して) の指示部分からテンポが緩やかになり、全体的にピアノ (P) で演奏されている。Ach, könnt' ich dorthin kommen, und dort mein Herz erfreu'n, の詩行は、dort の「r」を強く巻き舌し、kommen の「o」の母音を透き通るような響きで歌唱し、最後の「n」を明確に発音しており、言葉一語一語を音楽に合わせて非常に丁寧に歌唱していると言える。83小節まで同様である。84小節後半-91小節は、85小節1拍目の「je-」、87小節の「Won-」、にアクセントを置き、音楽が自然に流れており、「母音」に統一した響きを与えて歌唱している。90小節の「im」の部分でややリタルダンドしており、91小節の「Traum」(夢)のニュアンスが伝わるような表現を加えている。92-95小節は、doch kommt die Morgensonne の「Mor-」の「C-E」に音程が上がる箇所は、軽く柔らかな音色で高い技術を持ち合わせて歌唱される。96-103小節は、終始ピアノ (P) の音色で歌唱され、102小節 eitel Schaum でアダージョのテンポに落としている。104小節からは後奏であり、曲の冒頭で表れた旋律が再び流れて終曲する。

16. Die alten, bösen lieder op. 48-16

(いまわしい思い出の歌)

第16曲は、h moll (原曲 gis moll), Ziemlich langsam, 4/4 拍子であり、この終曲は、主人公の恋の体験の全てを深い海へと葬りさるという内容である。決然とした意思のある声とデューナーミクの幅が広い音楽で構築されている。

アウフタクトの前奏に装飾音符がつき、スフォルツァンドで激しく和音が鳴り響く。3小節後半から

歌が始まるが、この部分は、拍のカウントが取りにくいので、3小節に出てくる最初の8分音符のピアノ伴奏の音に注力し、2つ目の8分音符の箇所では伴奏と歌を合わせている。3小節後半-5小節の Die alten bösen Lieder の部分は、フォルテで歌い、雄々しく歌唱し、「al-」、「bö-」、「Lie-」の拍の強拍箇所を強調している。5-7小節の die Träume bö's und arg の詩行は、リズムを刻み bö's の「ö」を深く発音し、arg の「r」を強めに巻き舌して雄大に歌唱される。7小節後半-11小節は、8小節の「jetzt」、9小節の「graben」の言葉を強調し、テンポは一定で音楽の流れに沿って自然に歌唱される。11小節後半-15小節の Hinein leg' ich gar manches doch sag' ich noch nicht was の詩行は、Hinein からピアノ (P) で歌い出し、ich の「ch」の子音を横隔膜を使い明確に発音し、manches の言葉にアクセントを置き、sag' の「s」の子音を早めに発音し、「a」の母音を響かせ、nicht の「cht」の子音を非常に強調して歌唱される。15小節後半-19小節のフレーズは、フォルテで歌い出し、「Sarg」「sein」「grö-」「-sse」の「C-Fis-A-D」の上行音程の部分にアクセントを置き、伴奏と伴にクレッシェンドして歌唱している。18小節の Heidelberger の「r」を強く巻き舌して語句を強調している。19小節後半-23小節は、音楽がフォルテからピアノ (P) になり、伴奏部にスタッカートがついている。曲調の変化に合わせて音量を落とし、「パルランド唱法」で自然にしゃべるように歌唱され、20小節の「To-」22小節の「Bret-」「fest」「und」の部分で強調し歌唱している。23小節後半-27小節は、15-19小節に似た上行形のフレーズが表れ、「muss」「sie」「län-」「-ger」の「E-G-H-E」の音程部分に音楽のストレスを置き、クレッシェンドして歌い切り、26小節の wie と Mainz の言葉を強調し、27小節 Brück' の「k」の子音を明確に発音して歌唱している。27-31小節は、19-23と似たフレーズが表れ、同じくピアノ (P) で演奏される。Und holt mir auch zwölf Riesen, die müssen noch starker sein は、全体的にピアノ (P) であるが、「zwölf」、「Rie-」、「die」、「müs-」、「stär-」、にアクセントを置き、音楽が立体的に聴こえてくるよう歌唱している。31小節後半-35小節は、15-19、23-27小節と似た上行形のフレーズが歌われ、als wie der starstarke Cristoph, im Dom zu Cöln am Rhein の詩行の「wie」「star-」「Chri-」「stoph」の箇所にアクセントを置き、クレッシェンドして歌唱

している。このフレーズは3回出てきたが、このフレーズが一番高音域を歌い、技術が必要であるが、豊かな響きとテクニックを持ち合わせて巧みに歌唱している。35小節後半-43小節は、歌唱部の旋律の音価が長く、ピアノ伴奏部もまた、アクセント記号や厚い和音が連続し、スフォルツァンドも付いており、全体的にリタルダンドしながらペザンテで歌唱している。44-51小節は、これまでのフォルテの音楽から一変して全体的にピアノ(P)の音楽になり、*Wisst ihr, warum der Sarg wohl so gross und schwer mag sein? Ich senkt' auch meine Liebe Und meinen Schmerz hinein.* の最後の詩行は、『詩人の恋 op. 48』を締めくくるフレーズであり、“パルランド唱法”でゆっくりと静かに歌唱して終曲する。

V. おわりに

ディースカウの『詩人の恋 p. 48』全16曲の演奏は、技術的にも音楽的にも世界最高レベルの芸術的価値の高い演奏であることが再認識された。全16曲の歌曲集1曲1曲の音源を聴取し、楽譜と照らし合わせて演奏分析を行うことで、ディースカウが「楽譜」に忠実な演奏を行い、尚且つハインリヒ・ハイネの「詩」の世界感を高度な技術と音楽性で巧みに表現していた。

歌曲集『詩人の恋 op. 48』の録音では、“パルランド唱法”を随所で活かし歌唱されており、詩を語ることで自然と「歌」にするという特徴が顕著に見られた。ディースカウの演奏は、主人公が恋をし、失恋し、悲観して最後に全てのできごとを海に沈めるといふ、この物語を、音楽と一体となり、大小それぞれのフレーズに注力し、詩を的確に解釈し、いかなる細かなパッセージも完璧に歌唱し、詩と音楽を融合させたシューマンの情感豊かな音楽の世界を色彩鮮やかに表現していた。

これまで多くの演奏家が歌曲集『詩人の恋 op. 48』の演奏を行い、録音が残され、それぞれに個性があるが、ディースカウほど完璧な技術と幅広い表現力で演奏を行える演奏家はあまり類を見ないと言えよう。彼はこれまでシューマンの他、フランツ・リスト(Franz Liszt 1811-1886)、ヨハネス・ブラームス(Johannes Brahms 1833-1897)、リヒャルト・シュトラウス(Richard Strauss 1864-1949)等が作曲した、数多くのドイツ・リート録音を残しており、それらはどれも芸術性に優れ世界的に高い評価

を得ている。この歌曲集『詩人の恋 op. 48』の録音もその中の一つであり、今なお多くの演奏家等によって聴かれている名演奏なのである。

本研究では、彼の残した歌曲集『詩人の恋 op. 48』のCD音源を聴き、発声法、アクセントの置き方、母音や子音の発音の仕方、言葉や音楽の強弱のつけ方、伴奏との合わせ方、フレージングの方法等、多角的に楽譜と照らし合わせて演奏分析を行うことで、ディースカウの演奏を通して歌曲集『詩人の恋 op. 48』がどのように歌われるべきかについて考察してきた。その結果、「楽譜に忠実な演奏」、「深い詩の解釈をした上での巧みなパルランド唱法」に注力した演奏を行うべきであることが明らかとなった。

引用文献・参考文献

- 1) 新編 世界大音楽全集 声楽編4 シューマン 歌曲集 I 1989年 p. 214-215 p. 240-245
- 2) 板橋江利也 ロベルト・シューマン作曲『詩人の恋』のフリッツ・ヴンダリッヒによる演奏の分析 佐賀大学文化教育学部紀要第10巻 1号 2005年 p. 67-81
- 3) 木村潤二 歌曲伴奏法に関する研究 - 歌曲集「詩人の恋」伴奏部の詩との関わり合いについて - 東京学芸大学紀要 5部門 47号 1995年 p. 27-47
- 4) 池上敏 山口大学教育学部紀要 第42巻 1992年 p. 413-427
- 5) 眞田守計 R. シューマンの歌曲に於ける発想記号の特徴について 金沢大学教育学部紀要 第28巻 1992年 p. 25-46
- 6) SHUMANN LIEDER I Mittlere Stimme EDITION PETERS Nr.2383b p.106-138
- 7) 藤本一子 作曲家◎人と作品シリーズ シューマン 音楽の友社 2012年 P. 195-196
- 8) 塚本靖彦・古澤泉 Robert Schuman 作曲・歌曲集「詩人の恋」Op. 48の研究～演奏論的立場からの考察した全曲分析とその論理性～ 群馬大学教育学部紀要第32巻 1997年 p. 23-47
- 9) フィッシャー＝ディースカウ 『シューマンの歌曲をたどって』 白水社 1997年 p162-174

〈参考音源〉

Deutsch Grammophon 415190-2

“DIETRICH FISCHER-DIESKAU” Schumann :
Dichterliebe · Liederkreis op.39 Myrten: 7 Lieder
1974年4月 1975年4月 CHRISTOPH ESCHEN-
BACH